

予算特別委員会委員長報告

ただいま議題となりました平成 31 年度神戸市各会計予算及び関連議案、合計 59 議案について、委員会審査の経過並びに結果についてご報告申し上げます。

平成 31 年度は、神戸市が誕生してから 130 周年、阪神・淡路大震災から 25 年を迎える節目の年であります。

新しいステージに立つ神戸は、残された課題の解決に一定の道筋をつけることができました。神戸港は港勢を回復し、神戸空港は関西 3 空港一体運営が順調に進み、大阪湾岸道路西伸部は着工段階に入るなど、輝かしい未来に向けた確かな歩みを進めています。一方で、人口減少・少子高齢化という、社会的・構造的な課題を克服するため、これまで以上に、スピード感をもって、時代の変化に対応し、神戸をさらなる高みへ押し上げていかなければなりません。

こうした点から、平成 31 年度予算は、暮らしの質と都市の価値の向上をめざして、子育て・教育施策、インフラ整備、経済の活性化、市政改革など、幅広い施策を総合的に展開し、神戸の新たな未来を切り拓くものとなっております。

委員会は、去る 2 月 19 日に議案の付託を受けて以来、3 つの分科会を設け、20 日から 3 月 1 日まで局別審査、さらに 6 日には市長・副市長等に対する総括質疑を行いました。

それでは、委員会審査において議論となりました主な事項について、簡単にご報告申し上げます。

まず、市政全般に関するものとして、コンプライアンスの徹底、風通しの良い組織風土づくりなどについての議論がありました。

次に、施策別では、「子育て・教育」に関しては、待機児童の解消、学童保育の充実、児童虐待防止、教育委員会の組織風土改革、教員の多忙化対策、学校の過密化対策、学校における ICT 環境の整備などについて、

「福祉・環境」に関しては、健康寿命延伸の取組み、神戸市人と猫との共生に関する条例に基づく取組み、ごみの減量化、食品ロス削減の取組みなどについて、

また、「経済・産業・観光」に関しては、神戸医療産業都市の推進、国際スポーツ大会の開催、地域の魅力を生かした観光振興、商店街・小売市場の活性化、国際コンテナ戦略港湾の推進などについて、

さらに、「安全・安心なまちづくり」に関しては、駅を中心としたまちづくり、計画的開発団地のリノベーション、空き家・空き地の活用、高潮・津波災害対策、国民保護訓練、救急安心センターなどについて様々な議論がありました。

委員会では、このような審査の後、3月6日に松本のり子委員ほか10名から、予算の編成替えを求める動議が提出され、翌7日には各会派からの意見表明を、8日には意見決定をそれぞれ行ったのであります。

その結果、都心・三宮再整備に伴う大型開発などを理由とする反対意見もありましたが、本市の重要課題である人口減少を克服し、若者に選ばれるまちを実現するための子育て・教育環境の充実、雇用の創出やインフラ整備といった神戸経済の活性化策、すべての世代を対象にした幅広い社会保障政策などが、総合的にバランスよく計上されております。神戸の新たな未来を切り拓く施策が積極的に盛り込まれた予算となっていると判断できることから、委員会は動議を否決した上で、平成31年度神戸市各会計予算及び関連議案、合計59議案については、いずれも原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、委員会の要望事項について申し上げます。

まず、子育て・教育環境の充実についてであります。

若者に選ばれるまちをつくるためには、子育てしやすい環境を整備し、多様な働き方を支援するとともに、子どもが学びやすい環境をつくる必要があります。

よって、当局におかれては、子育て世帯の経済的負担の軽減を図るとともに、待機児童を解消するため、保育士の処遇改善や企業主導型保育所の整備に努められたいのであります。また、過密化している学校園の教育環境改善、学校スクールサポーターの柔軟な活用のほか、学校のICT化などに取り組まれないのであります。

さらに、児童虐待を防止するため、虐待が継続するリスクのある児童生徒への対応を強化するとともに各関係機関との連携を図られたいのであります。

次に、福祉施策の推進についてであります。

多様化する福祉課題を解決するためには、高齢者や障害者の方への支援を行うとともに、地域社会の中で支え合う福祉のまちづくりを推進することが必要です。

よって、当局におかれては、高齢者の就労支援、介護人材の確保や認知症対策など高齢者福祉施策を一層推進するとともに、複合化した福祉課題等の解決のた

め地域福祉ネットワークの拡充に努められたいのであります。

また、福祉避難所の設備の充実などにも努められたいのであります。

次に、交通利便性の確保についてであります。

持続可能な活力あるまちの実現のため、まちづくりと一体となった安全で快適な交通環境の形成に向けた取り組みを推進することが必要です。

よって、当局におかれては、道路や交差点の慢性的な渋滞対策を抜本的に行うとともに、市民の足である公共交通の発展のため、全庁を挙げて取り組まれないのであります。

次に、神戸経済の活性化についてであります。

神戸経済の更なる活性化のためには、今後も神戸港の港勢拡大を図るとともに、神戸空港の規制緩和等による利活用の拡大が必要です。

よって、当局におかれては、国際戦略港湾としての競争力強化のため、コンテナターミナルのA I化などを積極的に進めるとともに、港湾関連事業者への支援施策を一層図られたいのであります。

また、神戸空港については、規制緩和の実現に向け関係先に強く要望されたいのであります。

以上、委員会審査の経過及び結果並びに要望事項についてご報告申し上げます。

終わりに当たり、委員会運営に終始ご協力をいただきました副委員長、理事の皆様、並びに連日熱心な審査を賜りました委員の皆様にご心から敬意と感謝の意を表しまして、報告を終わります。